



第 323 号

2003年(平成15年)

10月15日

発行 明治大学
 編集 明治大学広報部
 TEL 03(3296)4083
 E-mail:
 koho@mics.meiji.ac.jp
 東京都千代田区神田駿
 河台1-1 (〒101-8301)

「ネットワークを用いた教育学習支援システム」

文部科学省の「特色ある大学教育支援プログラム」に選定される!!

— これからの明治大学のさまざまな教育改善への取組に期待 —

☆取組概要

明治大学は、文部科学省が今年度より実施した「特色ある大学教育支援プログラム」に「ネットワークを用いた教育学習支援システム」を申請し、選定されました。

「特色ある大学教育支援プログラム」は、文部科学省が大学教育の改善に資する種々の取組を日本の各大学に募り、そのうち、特色ある優れたものを選定し、広く社会に情報提供するなど、今後の高等教育の改善に活用するためのプログラムです。

また、明治大学は他大学との共同の取組としても、私立13大学による「ツィニングによる国際化への積極的取組」を申請し、選定されました。

☆取組理由

この取組は、明治大学の特色である「オンリーワンのための『個』」を強くする大学を実現するため、1981年から実施してきた情報基礎教育の推進を引き継いだものです。

全学的合意にもとづいて、全学的支援のもとに実施されており、先見性が認められると同時に、特に大規模大学におけるIT環境を活用した教育の工夫として特色があると判断されます。また、この取組のコンセプトと内容は、規模の異なる他大学においても十分に利用可能なもので、共通性及び公共性の面でも高い評価に値するものです。

☆取組名称

「ツィニングによる国際化への積極的取組」

☆共同申請校

芝浦工業大学、岡山理科大学、近畿大学、慶應義塾大学、拓殖大学、東海大学、東京工科大学、東京電気大学、東京理科大学、武蔵工業大学、明治大学、立命館大学、早稲田大学

主な内容紹介

- Oh-o! Meiji システム……………(2面)
- 授業設計のフレックス化と7講時制……………(3面)
- シンポジウム『これからの明治はどうあるべきか』(4面)
- 相談室の窓から……………(5面)
- 大学の史の散歩道……………(6面)
- 明大ニュース……………(7面)
- 第119回明大祭開催……………(8面)

☆取組名称

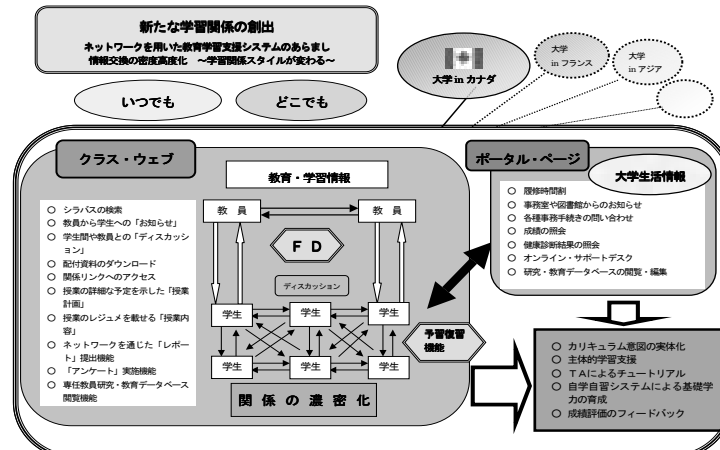
「ネットワークを用いた教育学習支援システム」(情報化社会における「個」の育成と新たな学習関係スタイルの創出)

概要は次のとおりです。

「ネットワークを用いた教育学習支援システム」を意図する教育目標の達成、②教育効果を測定するための授業評価の実施、③効果的な教材の開発と

提供し、教育情報交換の質と密度を高めるための教育・学習支援システムです。本取組はこのシステムを活用し、①カリキュラム編成が意図する教育目標の達成、②教育効果を測定するための授業評価の実施、③効果的な教材の開発と

環境を活用した教育の工夫として特色があると判断されます。また、この取組のコンセプトと内容は、規模の異なる他大学においても十分に利用可能なもので、共通性及び公共性の面でも高い評価に値するものです。

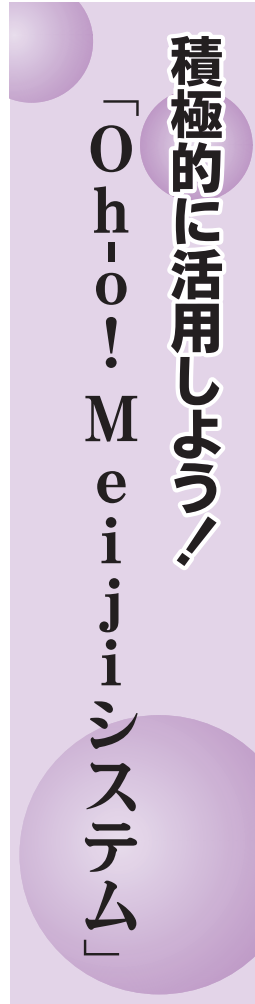


点

実りの秋。収穫を祝う季節だ。あいにくの冷夏のために、今年の稲の準備を始めるだろう。そんなふうにして、長い間、わが国の食糧生産はおこなわれ、私たちの生活は営まれてきた。しかし、農村の疲弊は著しい。特に高齢化が極限まで進んだ山間部の過疎の村では、日常の社会生活にも支障をきたすようになり、何百年も続いてきた祭が途絶えてしまったところも少なくない。▼ところが、同じように過疎でもにぎやかな祭をしている村に出会うことがときどきある。神社の境内の、せいせい百人程度のものだが、老若男女が入り混じり、笛や太鼓の音や談笑の音が夜通し絶えない。尋ねてみると村を出た若者が祭のときには友人を連れて村に帰ってきているとのこと。また、祭のたびに訪ねてくる大学生たちもいるという。農村の若者の状況も、農村に向けられた若者たちのまなざしも、かつてとは違ったものになりつつあるように感じられる。▼それでも国際的な農産物市場の開放圧力をはじめとして、わが国農業のおかれた状況はますます厳しさをまましていくことだろう。しかし、過疎の村の祭で活躍する若者たちの姿には、前世紀までの都市を舞台にした成長神話とは異なる新しい時代の息吹が宿っているようだ。▼前時代のくびきから解放され、本学の学園祭がようやく再開される。厳しい時代状況の中、新しい実りに向けて歩みはじめようとする学生たちにエールをおくりたい。

積極的に活用しよう!

「Oh-o! Meijiシステム」



平成15年度「特色ある大学教育支援プログラム」に選定された明治大学の「ネットワークを用いた教育学習支援システム」は「Oh-o! Meijiシステム (http://oh-o.meiji.ac.jp)」を教育学習支援に役立て、大学教育の質を大きく改善しようとする取組であります。

「特色ある大学教育支援プログラム」とは、国際競争力のある世界最高水準の大学づくりを推進するために企画した「21世紀COEプログラム」の教育版とも言われるプログラムで、別名「COL (Center of Learning)」とも呼ばれるものです。このプログラムへの応募は、大学が単独に申請する場合は、一大学一件の制限があり、複数の大学が共同で申請した案件も含め、今年度は664件(大学477校、短大151校、共同36件)の応募がありました。そのうち今年度採択されたものは、一割強の80件に留まりました。

テーマ3は、ティーチング・アシスタントやチューター制による教育活動の支援システム、大規模授業の授業効果の向上、IT等先端技術の教育への効果的導入、授業改善やファカルティ・ディベロップメントの組織的取組などを対象にした分野で、大学教育それ自体の質の改善に直接的に係わる分野といえます。明治大学の上記の取組はこの分野に申請しました。

申請できる分野は、テーマ1「総合的取組に関するテーマ」、テーマ2「教育課程の工夫改善に関するテーマ」、テーマ3「教育方法の工夫改善に関するテーマ」、テーマ4「学生の学習および課外活動への支援の工夫改善に関するテーマ」、テーマ5「大学と地域・社会との連携の工夫改善に関するテーマ」の5つの分野です。

2000年末から運用している Oh-o! Meiji クラス・ウェブは、明治大学の教育をインターネットを介して受講者に提供したり、一般に公開することによって、本学の教育をより一層効果的なものにするために開発された教育サポートシステムです。教育の本質は、対面的な関係の上に成り立つものであるという基本理念に立ち開発されたものであり、かつて従来の教育をインターネットに置き換えることを意味するものではありません。

これにより、本学は「情報最先端の大学」、あるいは「最先端の教育学習支援システムを備えた大学」として文部科学省より認知された唯一の大学と言っても過言ではないでしょう。

「誰でも(ゲストを含む)」「学生・教職員」「履修者」といった3種類の公開範囲の設定を選択することが可能です。

本年度から運用が始まった Oh-o! Meiji ポータル・ページは、大学の各空間に実際に移動しなくとも、自宅や職場から教育研究生活に関する情報が得られるようにならないものであろうかという要望を具現化しようとするシステムです。

「誰でも(ゲストを含む)」「学生・教職員」「履修者」といった3種類の公開範囲の設定を選択することが可能です。

「誰でも(ゲストを含む)」「学生・教職員」「履修者」といった3種類の公開範囲の設定を選択することが可能です。

「誰でも(ゲストを含む)」「学生・教職員」「履修者」といった3種類の公開範囲の設定を選択することが可能です。

「誰でも(ゲストを含む)」「学生・教職員」「履修者」といった3種類の公開範囲の設定を選択することが可能です。

な情報にリンクをはり補助教材とすることのできる「関連リンク」、上記の幾つかの機能を組み合わせて提示できる「フレキシブルメニュー」、そして授業評価アンケートなどを行える「アンケート」、さらに担当が専任教員の場合には教員の教育研究情報を提供する「専任教員データ・ベース」が科目ごとに設定されます。

これらの機能のうち、どれを利用するかは、各教員が判断し、最も教育効果の高い設定をおこないます。またこれらの情報では、「誰でも(ゲストを含む)」「学生・教職員」「履修者」といった3種類の公開範囲の設定を選択することが可能です。

本年度から運用が始まった Oh-o! Meiji ポータル・ページは、大学の各空間に実際に移動しなくとも、自宅や職場から教育研究生活に関する情報が得られるようにならないものであろうかという要望を具現化しようとするシステムです。

今年度からは、次のような機能が稼働しています。

事務室から出る会議開催通知や休講・教室変更、学生呼び出し、各種案内

「Oh-o! Meijiシステム」は、このように非常に多くの機能をもつシステムであり、明治大学の教育と生活をインターネットを活用し、時空の制限を取り除き、より効果的に支援する最先端のシステムといえます。

今回の「特色ある大学教育支援プログラム」の選定を機に、Oh-o! Meiji システムを是非活用してください。「情報最先端の明治大学」としてわが国のみならず世界のトップスクールとするよう明大健児の力を結集しようではありませんか。

(コンテンツ委員会委員長・政治経済学部教授 安藏伸治)



シリーズ

“2004年” 明治大学はこう変わる

授業設計のフレックス化と7講時制

明治大学は、2004年度、80余年にわたり、わが国の夜間教育に大きな社会的役割を果たしてきた二部の募集停止を決定しました。

これに伴い、時代が要請する新たな教育需要に対応し、学生諸君にフレックスな学びのかたちを提供する「7講時制による授業設計のフレックス化」を実施します。

ここに、その概要を紹介します。

二部教育の現状

明治大学は、日本の大学のなかでも有数の二部をもち、夜間教育の振興にたいして長年にわたり大きな役割を果たしてきました。しかし、日本社会における構造的な変化によって、従来の二部型の夜間教育のあり方および目的、社会が求める教育需要や学生諸君の志向との間にギャップが生じたために、二部がその教育的機能をじゅうぶん果たすことが困難な状況になってきていることが指摘されています。

現行の二部とは、夜間の時間帯に限りて授業を行うことを目的として設置された夜間部のごとく、同じ学部の昼間部である一部と同じのカリキュラムで学士課程の履修が行われています。かつては多く存在した勤労学生と呼ばれる層に勉学の機会を提供することが、主要な役割でした。しかし、そうした勤労学生層が激減するにつれて、二部に入学してくる学生諸君のなかに、不本意な仕方での入

7講時制による授業設計のフレックス化

21世紀を迎え、明治大学は、こうした社会の動向をふまえて、その新たな教育需要に積極的に応え、学習者一人ひとりのニーズにこそ適切に対応していくためのさまざまな大学改革を推し進めてきました。その一環として、フレックスな学びのかたちを実現することを目指した「7講時制による授業設計のフレックス化」を実施することを決め、2004年度よりスタートさせることになりました。

今までの、一部は昼間5講時、二部は夜間3講時と、昼夜で区別されていた授業時間割を改めて、昼夜を一本化した時間割とし、朝の9時から夜の9時10分までの7講時による授業展開を図ります。

これは、都心型大学としての本学の立地条件を活かして、夜間の時間帯の活用をすべての学生を対象に拡充し、多様な学習機会を提供することによって授業選択の幅を広げることが狙いです。学生諸君が、それぞれのライフスタイルに合わせて設計した学習計画にもつき、ゆとりのあるフレックスな時間割を組むことが可能となり、

これまで、時間割の面での制約から、とりたくてもとれなかったような科目が、これによってとりやすくなることが期待されます。

これ以外にもフレックス化では、カリキュラムの見直しを行い、科目の半期化や学部間での共通化を促進するなど、履修システムの改正がなされますが、こちらは2004年度以降の入学者への適用となります。したがって、2004年度以前の入学者と、それ以後の入学者とで、それぞれ履修の仕方が異なったりするようないことも起ります。履修要項や学部の案内などをよく参照してください。

現行二部学生の授業について

現在、法、商、政治経済、文の4つの学部二部がありますが、これらは、2004年度の入試から学生募集が停止されることとなります。ただし、学生募集を停止したからといって、すぐに二部がすっかりなくなってしまうわけはありません。二部に入学し現在までで学んでいる在籍生が卒業するまでのあいだは、二部の授業は続けられますし、大学がこれらの諸君を卒業生として社会に送りだしていくことに変わりはありません。二部が廃止になるのは、これらの在籍者がすべていなくなることです。

7講時制の実施

7講時制は、まず和泉校舎で2004年4月から実施され、和泉で学ぶ、法、商、政治経済、文、経営、それに新設の情報コミュニ

2004年度・2005年度授業時間割

和泉校舎				駿河台校舎			
7 講 時 制	①	9:00	~ 10:30	一 部	①	8:30	~ 10:00
	②	10:40	~ 12:10		②	10:10	~ 11:40
	③	13:00	~ 14:30		③	12:30	~ 14:00
	④	14:40	~ 16:10		④	14:10	~ 15:40
	⑤	16:20	~ 17:50		⑤	15:50	~ 17:20
	⑥	18:00	~ 19:30	二 部	①	17:30	~ 18:55
	⑦	19:40	~ 21:10		②	19:05	~ 20:30
					③	20:35	~ 22:00

ケーション(認可申請中)の各学部の1・2年次生が、この時間割を受講します。現在和泉に通学している1年生は、来年の4月から授業時間が今とは変わることになりますので、間違えないようにしてください。

駿河台校舎では、2年後の2006年4月からの実施となり、それまでは現行のままの時間割です。なお、すでに学部のガイダンスなどで説明がなされているところですが、2006年度に4年生になる二部の学生諸君の場合には、その時に、新しい7講時による時間割の6・7時限が二部の授業にあてられることとなります。

(二部教務部長 飯田年穂)

※ 土曜日についても7講時制とする。

「バカだろ」の明治はいつか

シンポジウム

以前と比べて、大学と大学生を取り巻く環境はがらりと変化してきています。戦前、数居の高さから大学生は、「学生さん」と呼ばれ特別な扱いを受けていましたが、現代の大学生のイメージはどうでしょうか。「分数ができない大学生」と言われるように、勉強もせずに遊んでばかりで毎日だからと過ごしているといったイメージの方が強いのではないのでしょうか。また教員から見た大学生のイメージも同様でしょう。

しかし学生の立場から考えるとどうでしょうか。はたしてどれほどの学生が入学前の理想通り、とまではいかなくともそれに近い大学生活を送っているのでしょうか。今までひたすら「勉強」をしていればよかった世界から、突然自己責任を伴う自由を与えられる世界へと入ります。大学の授業に失望している学生、大学で学んでいることが一体社会に出て何の役にたつのかと疑問に思っている学生もいると思います。社会に出ても通用する付加価値を身につけようとする者はダブルスクールを選択しているのが実情でしょう。

企業のニーズも、何を学んだかという本当の意味での「学歴」へと変化してきています。大学とは自由な空間ではありませんが、無為に過ごせば何も得られはしないと云われています。

今言える事は、我々は、今一度大学の意味について考えなくてはならない時にきているということ

なにかもしれませんが、肩書きを取り払って、少しぐらゐ本音で話せるような機会になればと思います。合同企画として、「これは明治だ」というタイトルで、一般公募した写真の展示をします。これは、学生・教職員・OBから明治大学らしい写真を募集し、人気投票を行なう企画です。さらに、現役明大生の中で6名の学生に焦点を当てたドキュメンタリービデオの上映も行ないます。これらは、現代の明治大学および明大生を表象したものであるかと思えます。シンポジウムという、何か堅苦しい、学術的なものであるという感がありますが、少しでもたくさんの方に気軽に参加していただきたいと思っています。

☆日 時
2003年11月28日(金)
12時30分～17時

☆入 場
無料(参加自由・申込不要)

☆場 所
駿河台校舎リバティホール

☆参加者
納谷廣美 法学部教授
由井武夫 元法学部教授
中野 章 政治経済学部教授
小室 晃 明治大学OB、日本IBM株式会社
高野 隼 法学部4年 他

ホームページ
<http://www.kisc.meiji.ac.jp/susanne/promoken.htm>

(法学部助教 スザネ・シエアマン)

ウォーキング部

ウォーキング部は、昨年40周年を迎えることのできた歴史ある部です。その活動内容は山や平地に関わらず幅広く「歩く」ことをモットーとしています。普段は月に一度か二度東京近郊の山へ行っています。夏のように長期休暇のとれる時期には遠出をし、10日間ぐらゐ時間をかけバックパッキングのようなこともしています。

ウォーキング部は、野外活動が中心ですのでテント生活が基本になります。食材・炊事道具はもちろん水、寝袋、雨具、ヘッドランプなど生活に必要な最低限のものを持っています。

限のものはすべて持っています。そのため荷物を入れたザックを背負ってみるといつの間にか自分の背丈ぐらゐあったりします。しかし、そんなザックを背負い、都会の喧騒から一歩離れて鬱蒼と繁る森の中や、山の山頂付近、あるいは川原から満天の星空を眺めながらラジオに聴き入り、眠りにつく瞬間は最高です。

野営での生活は、それだけ部員と交流が深められる場です。また、団体装備、食材の分担にしても一人ではなく、団体の生活の中で過ごす時間はとても大切なこと

三曲研究部は、40年以上続いている伝統あるサークルです。主な活動内容は、琴、尺八、三味線による和楽器の演奏をすることです。

現在、部員数は70名を超え、精力的に活動しています。年間行事は、定期演奏会が2回(6月・11月)、合宿が2回(3月・9月)です。定期演奏会では、大人数の観客の前で演奏ができるだけでなく、普段は、めったに身につけることのない着物を着ることもできます。特に、この定期演奏会は、年間を通じて最も大きな行事のため、部員全員で一つのものを創り上げると

いう達成感が得られます。この定期演奏会の他、多数のイベントがあります。また、関東学生三曲連盟という学生那邦の連盟に加盟しており、他大学との交流も盛んです。普段は、毎週金曜日に定期練習会を行います。週に1回の練習なので、兼部、アルバイト、資格取得等に時間を割くことも可能です。入部者のほとんどが、未経験者で、初心者は大歓迎です。また、2年生からの入部者も歓迎します。

現近のようにめまぐるしく変わる時代の中で、「変わらないもの」を体験してみるの、いかがです

サークル紹介

とです。ウォーキング部では、身のまわりに何もかもが溢れる場から野外へ生活の場が移った時の「大切さ」とその「良さ」を味わっています。部に入ったみんなが自然の中に身を投じることで、それを少しでも肌で感じることで、そのようなプランを作っています。構成メンバーは現在20人。年間行事の一つとして春、夏、秋それぞれ合宿があります。今年の春は箱根(駒ヶ岳・明神ヶ岳)で、夏は九州・大分(国東半島縦断・日田・中津縦断)で合宿を行いました。今後は、10月第2週に秋合宿を八ヶ岳で行う予定です。部活動は主に土曜・日曜で、次回の行事計画等の話し合いは部室で行います。今後は、10月第2週に秋合宿を八ヶ岳で行う予定です。部活動は主に土曜・日曜で、次回の行事計画等の話し合いは部室で行います。

興味をお持ちの方は、是非、ご来場ください。部員一同心よりお待ちしております。

幹事長・吉田智之(政治経済学部3年)



奥秩父・両神山頂

三曲研究部

か。「温故知新」の言葉が示す通り、古きをたずねて新しきを知るという行為は、人間が生きるうえで、決して無駄ではないはず。刹那の喜びだけでなく、生きていくということこそを日本伝統の音楽にのせて、私たちが一緒に奏でてみませんか。私たちが爪弾く、この小さなメロディの愛好者が増え、日本の未来に広く受け継がれることを切に願います。

本年度も、きたる11月21日(金)に、カメリアホール(総武線「亀戸駅」下車、徒歩約5分)で、定期演奏会を行います。入場料は無料で、開場13時30分、開演14時を予定しています。OB・OGの先輩方ははじめ、本紙に目を通してくださった方々の中で、少しでも

留学生のスピーチを聴こう!!
明治大学学長杯
留学生日本語スピーチコンテスト

日時: 11月15日(土) 13時~
場所: リバティータワー2階 1021教室
問合わせ先: 国際交流センター事務室
(駿河台校舎研究棟3階)
☎ 03-3296-4144

相談室の窓から

青野 覚
(相談員・法学部教授)

相談室での相談事例の中には、大学での勉強の仕方が分からないという相談が相当数あります。高校や受験時代には、それなりに出来てきたと思っている学生ほど、その悩みは深刻です。お話を聞いて見ると、それぞれの教科で指定された「専門書」を読むことができないという点に行き着く場合が多いようです。その結果、当該学問領域に特有

ですが、その解説が相談者にはピンとこないことがあります。読み方の技術論以前の次元に問いていない学生を観察してみると、二種類に分かれるようです。第一は、文章が含意している現象や状況の心像を心に浮かべてみることが出来ない、いわば想像力を

本の読み方、学び方

このような相談に出会うと、「読み方」の技術解説に移るわけ

のものの考え方が理解できず、体系的な認識が困難となっている。このような相談に出会うと、欠如タイプです。このようなタイプは、従来からあった古典的なタイプで、社会事象への無知と自身の主観的な問題意識が形成されて

ちです。近年このタイプの学生が増加しているように思われます。このようなタイプには、まずは著者を信じて読みはじめ、著者の主張に対して自身の内心からでる漠漠とした違和感を無視することなく心に留めて、全編を読み徹すことを勧めます。そして、このような読み方を実践すると、あなた自身が少し変わる

功するのには、多様な価値を許容できる柔軟性をもつ者だけのようです。このような柔軟性のある養はすこぶる困難なものです。ゼミでの学生と教員との長い時間をかけた個人的な遣り取りによって、可能になるものと思

政治経済学部地域行政学科連続公開講座

都市再生とコミュニティ

第1回 「統治と被治と自治—地域開発と生活」

日時：11月15日(土) 13時30分～
会場：駿河台校舎リパティタワー1012教室 (1階)
講師：安藤元雄 (政治経済学部教授)

第2回 「大都市の歴史と課題—逆転思考の時代」

日時：11月22日(土) 13時30分～
会場：駿河台校舎リパティタワー1012教室 (1階)
講師：青山侑 (前東京都副知事)

第3回 「分権改革の動向と課題」

日時：11月29日(土) 13時30分～
会場：駿河台校舎リパティタワー1012教室 (1階)
講師：神野直彦 (東京大学教授)

第4回 「アップルとキャベツの都市生活考—小説の舞台からニューヨークと臨海副都心」

日時：12月6日(土) 13時30分～
会場：駿河台校舎リパティタワー1022教室 (2階)
講師：有吉玉青 (作家)、市川宏雄 (政治経済学部教授)

※受講料無料、予約不要

※問い合わせは
政治経済学部事務室 (電話：03-3296-4171) まで

明治大学マスコミクラブ主催・明治大学就職事務部協力

「マスコミ就職セミナー」のお知らせ

明大マスコミクラブ (MMC) は、新聞・放送・出版・広告・制作など広くマスコミ界に関係する明大卒業生の組織です。就職事務部の協力で、マスコミを志望する学生に、各業界の第一線で活躍されているOB・OGが、以下の日程で業界全般の説明と質疑応答を行います。

- ▽10月16日(木)「放送セミナー」
- ▽10月27日(月)「広告セミナー」
- ▽11月13日(木)「出版セミナー」
- ▽11月27日(木)「新聞セミナー」
- ▽12月11日(木)「制作プロダクションセミナー」

* 場所：駿河台校舎リパティタワーリパティホール
* 時間：18時～

「思索の樹海」原稿募集!!

～新入生へ贈るあなたからのメッセージをお寄せください～
2004年度に入学する新入生に配布する新書版ガイド誌「思索の樹海」(2004年4月発行)の原稿を在学生のみならず募集します。

- ☆テーマ(例)：原則として自由、ただし執筆前に登録
- ①私費留学体験・準備中談 ②協定校留学体験・準備中談 ③夏期海外英語研修体験談・アドバイス ④資格取得に挑戦中(資格の種類別) ⑤資格取得体験談(資格の種類別) ⑥サークル体験談(文化部・体育会・同好会) ⑦リパティでの生活 ⑧和泉での生活 ⑨生田での生活 ⑩読書のすすめ ⑪学食活用術 など
- ※各テーマを通して新入生へのアドバイスや激励などを執筆してください。

※各テーマでは原則として一名の掲載とします。
※誌面限りがあります。執筆いただいても掲載できない場合がありますので予めご了承ください。

☆締切：1200字～2400字
☆締切：原稿の提出は11月28日(金)まで【厳守】
※執筆を希望される方は、10月31日(金)までに広報部までご連絡ください。執筆要項をお送りします。

※原稿執筆者全員にオリジナル・イオカードかパスネット(1,000円)1枚、掲載時には別途記念品を差し上げます。

◎応募・問い合わせ先
明治大学広報部(駿河台・学生会館6階)
電話：03-3296-4083
FAX：03-3296-4087
メール：koho@nics.meiji.ac.jp

学生相談室主催行事

「大きな声で英語のスピーチを朗読してみよう！」

日時：10月28日(火)、11月4日(火)、11月11日(火) 12時～14時
場所：生田学生相談室
指導：下谷和幸相談員 (農学部教授)
※参加無料・申込不要、1回でも毎回でも可

「茶せんを振って お茶をたててみませんか」

日時：10月14日(火)、10月21日(火)、11月21日(火) 12時～14時
場所：和泉学生相談室
指導：渡辺誠一相談員 (経営学部教授)
※参加費100円、電話で申込んでください(03-5300-1178)。1回でも毎回でも可

関連企画

- 11月16日(日)「初めての茶事」
鷺沼・茶室「明章庵」、懐石付3,500円
- 10月27日(日)12時から各地区学生相談室で受付

大学史の散歩道

54

大学史資料センター事務長

鈴木秀幸(文学部講師)



判事・百瀬武策(百瀬正雄氏蔵)

例えば明治一四(一八八二)〜六年の明治法律学校現明治大学)入学生を見ると、長野県出身者は六〇名、府県別では東京府八九名に続いて第二位である。その順位は一〇年後も変わらない。

その中の一人に五味武策がいた。彼は文久二(一八六二)年九月、二〇〇メートル級の山々に囲まれた信濃国東筑摩郡南内田村(現在の塩尻市)という農村に生まれた。農業を営む善治といさの二男である(現在の五味家母屋は武策が生まれ育った頃のものという)。創立間もない隣村の内田学校を卒業後、明治一〇年四月、長野県師範学校に入学、三年後には母校の教員として赴任した。地域にあって、上級の学校を卒業し、エリート教員の道を行んだのであるが、在任期間はずか一年間だけのことであり、当時、多くの師範学校出身者が望んだように、彼もまた東京に出て高等教育を受けることとなった。

上京のようすは、彼の『日記簿』(明治一四年)に詳しい。それによれば入学したのは日本講法社という法律私塾であったが、学校騒動が発生、早速、自己の進路に迷うこととなった。しかし、同年五月には、一月に創立したばかりの明治法律学校に入学することになった。この間には恐らく両校の教員をしていた矢代操(明治法律学校創立者の一人)の指導や斡旋があったと思われる。当時の同校はきわめて低い卒業率(四パーセント)であったが、第一回卒業生(一九名)として首尾よく、全うした。そして明治二六年一〇月から明治法律学校の塾監となった。塾監とは構内に起居し、部長という係をしたがえて寄宿生の生活はもとより、彼らの学習の指導もする職務である。今日、残された資料を見ると、彼のところには教員である西園寺公望、岸本辰雄、光妙寺三郎からの授業に関する手紙が届いている。また、寄宿舎分舎の新設のために奔走したこともある。このことからすると塾監は学校当局と寄宿生(交通が発達していないため多くの学生は寄宿生活)との間に立ち教務・生活指導・寮運営等々に当たっていたことが分かる。草創期明治大学を想う時、このような人達の存在を忘れてはならない。

一方、塾監や部長たちは司法試験の勉強も怠らなかつた。それにより彼は明治一九年二月に突破、母校を去り、京都始審裁判所に判事候補として赴任した。生家近くの百瀬家の養子となったのはこの頃のことである。その後、松江始審裁判所、広島地方裁判所、広島控訴院等々で判事をつとめた後、佐賀・鹿児島・熊本の各地方裁判所々長を歴任したが、大正一〇(一九二二)年六月二日、広島地方裁判所々長として現職のまま、六〇歳で亡くなった。判事としての彼のことは、急所をつかない判断はひとつもなく、司法界に貢献すること顯著であったと関係者が述べている(山浦武四郎弔辞)ことかから分かる。また、そのことは、残されている賞状類も証明している。ところが百瀬武策について特筆すべきことは他にもある。ひとつは、母校を去った後にも明治法律学校の校友として、盛んに母校のために活動をしていることである。また任地では法律学の啓発と普及のために尽力している。さらに多くのところに浄財を寄付していることでもある。紙数の関係で、この三点全てを紹介することはできないので、今回は第二番目の教育・普及活動を取り上げる。

実は彼は、明治法律学校で塾監として在職中、明法学館という夜間一年制による勤労者向けの法律学校の設立を企画したことがある。結局、同校自体は実現しなかつたが、明治一八年、浅草法律学校として開校、彼は法律学を講じた。そのことに對し、明治法律学校の教員も協力を惜しまなかつた。その後、彼は松江の裁判所判事となつた時には同地の松江法律学校で講義を担当した。同校は、明治二二(一八八九)年七月に英吉利法律学校を卒業した桑原羊次郎が郷里松江に開校した法律学校である。さらに百瀬武策は最も在任期間が長くなる広島に転任したが、そこでは勤務場所の地方裁判所や控訴院からほど近い広島法律学校で教鞭をとった。同校は明治二〇年三月二七日、広島区大手町に秋広淡一郎を校長として開校された三年制の法律学校であり、一時は校舎の増築をしたり、あるいは地域法曹人の抛り所ともなるなどした。

地方から夢を抱いて上京した青年が東京で学んだことを、さらに職務を通して地方に還元していくようす、あるいは本務以外にも幅広く活動していくありさまといったことから、近代日本の初期の実態をかいまみることができよう。本稿の作成に当っては末孫の五味信子氏・百瀬正雄氏・香月邦子氏、広島市立中央図書館、呉市史編さん室、中央大学大学史編纂課、平出博物館に御指導と御協力をいただいた。末筆ながら謝意を記させていただきます。

学校を発掘する(その9) 百瀬武策と広島法律学校



武策少年の生れ育った信濃南内田(2002年12月撮影)

明大ニュース

完成

☆八幡山グラウンド

ラグビー場・ハイブリット

ターフ人工芝工事完了☆

7月から着工していた八幡山グラウンドラグビー場の人工芝「ラグビー用ハイブリットターフ」敷設工事が、9月8日、完了した。

これは、日本ラグビーフットボール協会が、人工芝グラウンドを公式のグラウンドサーフェースとして決定したことにより、ラグビー部が、いち早く時代の流れに対応すべくグラウンドの人工芝化を大学に要望したことから実現したものである。



新装されたラグビー場

「ラグビー用ハイブリットターフ」は、人工芝の芝丈を従来の2〜3倍(本学では75mm)とし、目砂と細粒ゴムチップを効果的に充填することで、天然芝に近い風合いとクッション性を実現し、果敢なプレーに挑む選手たちの高い安全性とプレー性能を両立した構

造となっている。

今後、伝統と実績に裏打ちされた明大ラグビー部の常勝復活が期待される。

なお、9月26日行われた関東大学ラグビー対抗戦・日体大戦では、9トライを上げ、97対40で完勝。幸先良いスタートを切った。

ラグビー対抗戦日程

月日	対戦相手	会場
10月18日(土)	青学大	三ツ沢宮
11月3日(月・祝)	慶大	秩父宮
11月9日(日)	筑波大	秩父宮
11月30日(日)	帝京大	秩父宮
12月7日(日)	早大	国立

*開始時間は、いずれも14時

称号

☆日本生物環境調節学会が今井教授にフェローの称号贈る☆

今井勝・農学部教授は、9月9日、日本生物環境調節学会からフェローの称号を贈られた。

同学会は、生物学領域における環境調節に関心を寄せる研究者等の学会。フェローの称号は、過去に同学会の学会賞を受賞し、その後も継続して学会に貢献した者に贈られる。今井教授は昨年度、論文「作物の光合成ガス代謝と乾物生産に及ぼす環境の影響の解明に関する研究」で学会賞を受賞するとともに、長年にわたる同学会への貢献などが評価された。

今井教授は、農学部で「植物生

国家公務員採用試験

理生態学」などの授業科目を担当している。

☆明大からI種12人

II種209人が合格☆

人事院は6月27日、中央府省の幹部候補となる国家公務員採用I種試験の2003年度合格者を発表した。採用試験は、今年度から大幅な早期化・短縮化が図られ、受付期間の短縮や出願方法の変更等があった。申込者数は31911人で、合格者数は17500人。

明大からは12人(昨年度9人)が合格を果たし、その区分別内訳は行政1人、法律3人、経済2人、理工1人、農学1人、農学II 2人、農学III 1人で女子の合格者は3人だった。採用予定人員は約680人となっている。

また、9月4日には中央府省の地方出先機関などで幹部候補となる国家公務員採用II種試験の2003年度合格者を発表した。申込者数は71699人で、合格者数は7690人。

明大からは、209人(女子37人)内数、昨年度212人)が合格した。採用予定人員は約3900人となっている。

スポーツ

☆第22回ユニバーシアード大会

寺井、泉(柔道)、戸川(サッカー) 遠藤(体操)選手が大活躍☆

☆全世界の学生の総合競技大会である第22回ユニバーシアード競技大会が、韓国・テグ市で8月21日から31日まで177カ国・地域から6

800名を超える選手・関係者が参加して開催された。

明大からは、泉浩(経営3、柔道)、遠藤真希(法1、体操)、寺居高志(政経4、柔道)、戸川健太(政経4、サッカー)選手が代表入り、大学世界ナンバーワンを目指した。

柔道男子90kg級に出場した泉は、見事金メダルを獲得。同66kg級に出場した寺居も優勝を果たした。また、泉と寺居がメンバー入りした男子団体では、決勝で韓国に内容差で敗れ、惜しくも銀メダルとなった。

前回大会(中国・北京)に続く2連覇を目指した男子サッカーは、順調に予選を突破。決勝でイタリヤを3対2(前半1対1)で破り、戸川は2連覇に貢献した。

遠藤は、体操男子団体総合に出場。銅メダル獲得とチームをけん引した。また、個人総合では、予選を4位で通過、そのまま4位に食い込んだ。

☆世界柔道選手権

棟田、阿武選手が金メダル、泉(経営3)選手は団体銀メダル☆

9月11日から大阪城ホールで開催された、世界柔道選手権大会。明大からは、卒業生の棟田康幸(警視庁、03法卒、男子100kg超級)、矢野雄大(了徳寺学園職、03年経営卒、男子90kg級)、阿武教子(警視庁、99年文卒、女子78kg級)選手、在学生の泉浩(経営3)選手が出場し、世界の頂点を目指した。

世界挑戦2度目の棟田は、初めての金メダルを獲得。万全の調整で迎えた阿武は、大会4連覇を果

たした。世界選手権初出場の矢野は、惜しくも3回戦で敗れた。

男子団体には棟田・矢野に加え、泉がメンバー入り、フランスとの決勝戦で副将として出場、団体銀メダルを獲得した。

☆六大学野球

リーグ戦通算1000勝を達成、優勝に向け好スタート発進☆

東京六大学野球秋季リーグ戦が、9月13日、神宮球場で開幕。

春季リーグ戦で優勝にあと一步と迫った明大の初戦は第2週東大戦。同点で迎えた9回裏、主将・呉本(政経4)がサヨナラ本塁打を放ち先勝。劇的な勝利で早大に次いで2チーム目となるリーグ戦通算1000勝(691敗84分け)を達成した。2回戦では立ち上がり2点を失った一場(商3)が、しり上がりに調子を上げ13三振を奪う力投。同点の9回表、呉本が2者を迎え入れる決勝打を放ち連勝した。

続く第3週は慶大戦。1回戦は2点を追う9回裏、同点に迫り着き、佐藤賢(政経4)が延長10回を抑え、その裏、1死満塁からの押し出し四球でサヨナラ勝ち。2回戦は岡本(文4)・佐藤賢の継

投、慶大投手の力投で4回以降無得点、延長12回、規定により引き分けた。3回戦は4回、呉本、原島(経営2)がソロ本塁打で2点を奪い、一場が完投で今季2勝目を挙げ、勝ち点を2とした。

スポーツ短信

☆馬術・第33回全日本総合馬術大会(9月6〜8日、山梨・山梨県馬術競技場)

◇ヤングライダー選手権
①高橋正直(農4)、②佐藤賢希(法1)、③林伸伍(政経1)
☆相撲・第30回東日本学生個人体重別選手権(9月7日、東京・靖国神社相撲場)
◇85kg級①鈴木泰治(政経1)
☆卓球・平成15年秋季関東学生リーグ戦(9月3〜7日、東京・代々木第2体育館)
◇男子最終成績①明大(5勝)
※明大は2季連続28度目の優勝
☆拳法・平成15年度全日本拳法総合選手権(9月14日、大阪・大阪市中央体育館)
◇男子個人①中柴大輔(政経1)
※中柴は史上最年少優勝
☆ゴルフ・平成15年度関東大学秋季Bブロック対抗戦(9月16〜20日、福島・棚倉田舎倶楽部)
◇男子最終成績①明大(5勝)
※明大はAブロック昇格
☆馬術・第3回アジア馬術選手権大会(9月18〜21日、中国・北京)
◇障害飛越①戸本一真(商2)
☆柔道・第35回全日本ジュニア体重別選手権大会(9月20〜21日、埼玉・県立武道館)
◇男子20kg級①田中誠(政経1)、同90kg級①日當浩二(商1)

東京六大学野球秋季リーグ戦日程

10月18日(土)	早大-明大	慶大-法大
19日(日)	法大-慶大	明大-早大
25日(土)	法大-明大	東大-立大
26日(日)	立大-東大	明大-法大
11月1日(土)	慶大-早大	
2日(日)	早大-慶大	

※対戦校左側が三塁側で先攻、右側が二塁側で先攻の場合、午前11時試合開始は2試合の場合、会場は明治神宮球場

「ヒマラヤ8000m峰14座完登」展 リバティタワー23階常設展示

明大山岳部ヒマラヤ8000m峰14座全山登頂 —単一大学・クラブチームで世界初—

2001年の明治大学創立120周年、2002年の体育会山岳部創部80周年を迎えるにあたって企画された、ドリームプロジェクト「ヒマラヤ8000m峰14座全山登頂」が、山岳部同好会による今年5月16日のアンナプルナI峰の登頂で完結した。

明治大学が生んだ世界屈指の冒険家・国民栄誉賞受賞者・植村直己氏が1970年にエベレスト(チョモランマ)に日本人として初登頂して以来、後を次いだ山岳部の後輩たちが30年余にわたって積み重ねてきた結晶である。また、山岳部出身者は徒歩による北極点、南極点への到達も果たしており、地球の3極の頂点すべてに紫紺の旗がはためいたことになる。

これを記念して、明大リバティタワー23階の岸本辰雄記念ホールでの常設展示展では、7月から11月末まで、「ヒマラヤ8000m峰14座完登」と題し、明大山岳部同好会によるヒマラヤ8000m峰への挑戦と栄光の記録を展示している。



展示は、これらの輝かしい成果を、ケースごとに8000m峰の登頂シーンや登山装備などが展示され、栄光の記録を称えている。特に植村氏が登頂したエベレストのケースでは、1970年代の装備や氏が登頂した5大陸最高峰の石で製作したぐい呑みなどが展示され当時を偲ばせている。是非、ご覧ください。

第119回明大祭開催!! 11月1日～3日

11月1日(土)から3日(月・祝)に、和泉校舎を中心に明大祭が行なわれます。現在、明大祭実行委員会によって、準備が着々と進められています。

サークル・ゼミによる日頃の活動成果の展示・発表や、模擬店など様々な企画が行なわれる他、以下のようなイベントも予定されています。

- * オープニング (11/1) 大仁田厚さん出演
- * 明大映画祭 (11/1) コンテスト形式で、サークル及びゼミが各自製作した作品を上映
- * ミュージックフェスティバル (11/1～3) 音楽系サークルによるライブ
- * お笑いライブ (11/1 アンジャッシュ、おぎやはぎ 他 11/3 ハリガネロック、だいたひかる、5GAP 他) テレビ等で活躍中のお笑い芸人によるステージ
- * ライブ (11/2 DOMINO88 11/3 HUSKING BEE, ASUPARAGUS) 人気ロックバンドのライブ

各イベントのチケット販売その他、明大祭に関する詳しい情報は、実行委員会のホームページ (<http://www.kisc.meiji.ac.jp/~gakusai/>)、また学内の明大祭用掲示板で確認してください。

今回は、4年ぶりの学園祭となります。出展団体以外の学生も是非来場して、様々な企画を楽しんでください。

また、次号では11月22日(土)～24日(月・祝)に生田校舎で行なわれる生明祭の情報をお知らせします。

演奏会等

☆マンドリン倶楽部
第153回定期演奏会

フェスタ・ラテン

☆情熱のリズム☆

▼日時 11月15日(土)

昼の部 13時30分開場

夜の部 17時30分開場

18時開演

▼会場 日本青年館

JR信濃町・千駄ヶ谷駅下車

徒歩7分

▼ゲスト 日本アンソニオ古賀

▼演奏曲目 第一部 古典音楽(歌劇「ウィリアム・テル」序曲、火祭りの踊り等

第2部 卒業演奏(さらば我が友等)

第3部 フェスタ・ラテン(マンドリンのビート、ティコ・ティコ、エル・クンバンチェロ等)

▼チケット 全席指定・S席3000円、A席2500円、B席1500円、学生席500円

▼問い合わせ先

090-8018-6466

☆明治大学応援団
第49回紫紺の集い☆

▼日時 11月29日(土)

15時30分開場 16時開演予定

▼場所 日比谷公会堂

▼その他 ゲストコーナーとして明大学生であり現役の国会議員でもある大仁田厚氏、「狙い撃ち」の山本リンダさん等を迎え、ステージや講演を行って戴く予定です。

☆明治大学応援団
吹奏楽部バトン・チャリデー

▼日時 12月12日(金)

17時30分開場 18時開演予定

▼場所 江戸川区総合文化センター

ソラーボート

☆びわ湖クルーズで
明大ロボティックシステムズが優勝☆

太陽電池を積んだ無人ボートがびわ湖を疾走する。8月23～24日に開催されたクルーズ・ソラーボート協会が主催する第7回びわ湖クルーズ・ソラーボート大会の先端技術部門に明大ロボティックシステムズ(理工学部2年・山本真裕君他4名)が出場した。競技方法は、マキノ町サニービー

Calendar

10～11月

- 10月18日(土) 連合父母会主催「学生交流会」(静岡・愛知・岐阜・三重県出身者対象、駿河台校舎、15時)
第80回東京箱根間往復大学駅伝競走予選会(9時30分、箱根町芦ノ湖畔)
ラグビー対抗戦・青学大戦(14時、三ツ沢)
東京6大学野球・明早戦(第1試合・神宮)
- 19日(日) 東京6大学野球・明早戦(第2試合・神宮)
学生相談室行事「ぶらり江戸再発見&歴史散策」
- 25日(土) 学生相談室行事「体験・農業in富士吉田」(～26日)
東京6大学野球・明法戦(第1試合・神宮)
- 26日(日) 東京6大学野球・明法戦(第2試合・神宮)
- 11月1日(土) 第119回明大祭(～3日、和泉校舎)
- 3日(月) ラグビー対抗戦・慶大戦(14時、秩父宮)
- 9日(日) ラグビー対抗戦・筑波大戦(14時、秩父宮)
- 15日(土) 第8回学長杯「留学生日本語スピーチコンテスト」(13時、駿河台校舎リバティタワー1021教室)
連合父母会主催「学生交流会」(北海道、青森・岩手・宮城・秋田・山形・福島県出身者対象、駿河台校舎、15時)
- 22日(土) 生明祭(～24日、生田校舎)
- 28日(金) シンポジウム「これからの明治はどうあるべきか」(12時30分、駿河台校舎リバティホール)
- 30日(日) ラグビー対抗戦・帝京大戦(14時、秩父宮)

休業・休講のお知らせ

- ◎創立記念祝日による休業 11月1日(土)
- ◎明大祭開催による休講(駿河台・和泉校舎のみ) 11月4日(火)

チを出発して竹生島の北端を反時計回りに周回して出発点に戻る約20kmのコースで所要時間により順位を競うもの。操縦は衛星利用測位システム(GPS)を利用し、動力はソラーパネル面積2㎡以下のもを使用することになっている。人も伴走するが、ボート自身に完備可能な自動走行が要求される。

レースは、約1時間半の迷走から立ち直った明大が3時間18分の好成績で見事優勝した。